

巻 頭 言

広報委員会前委員長・日本大学文理学部
齋藤 明

現在日本数学会ホームページのリニューアル作業が進んでいる。この原稿を書いている現在、和文のページについて作業が終了しつつある。この号が出る頃には、和文のページについては既にリニューアルが公開されているだろうと予想している。英文ページもこの号が出る頃に公開されていなくても、近日中に公開されるはずである。

私は広報委員の委員としてリニューアル作業に関わってきた。そこで巻頭言の場を借りて今回のリニューアルの経緯を記してみたい。

過去のホームページは会員有志の手作業で作成されたものである(と私は聞いている)。当時のトップページのデザインなど、私はよくできていたと思うのだが、やはり専門の業者が作成したものに比べると、見栄えの面で見劣りがしてきたように思える。近年ほとんどの学会が業者作成のホームページを公開していることを考えると、日本数学会も業者が作成したホームページにリニューアルする必要がある。また当時の日本数学会ホームページの下位層のいくつかのページは、管理・更新を委員会などに委託されていた。こうしたページでは担当者が所属する委員会などの判断でページを更新し、リンクを張っていた。その結果、時間の経過とともにページのデザインは統一性を欠き、リンクは錯綜することとなった。このため、一般の会員や非会員から、「トップページから必要とする情報にたどり着けず、迷子になってしまう」という声が上がっていた。こうした状況の中、私が広報委員会委員長であった 2017 年秋からリニューアルの作業が始まった。

リニューアルにあたっては、広報委員会と情報システム運用委員会の数人がチームを作り、事務局の助力を得ながら実務を行った。機動性を高めるために、チームの規模は小さくした。ただし基本設計やトップページ直下の階層の決定など作業の大きな節目には、理事会、広報委員会、情報システム運用委員会、出版委員会などの確認を求めるようにした。

リニューアル作業の第一歩は、対象者、すなわち「日本数学会ホームページは誰のためにあるのか」を決めることであった。ホームページを通して日本数学会の活動を広く社会に認知してもらうことを狙うのであれば、その対象は非会員となる。一方、ホームページを会員の便宜を図るためのものと捉えるのであれば、その対象は日本数学会会員となる。トップページに2つの対象者用の入り口を設ける案も検討されたが、現ホームページを調べてみると、そのコンテンツは圧倒的に会員向けのものが多かった。そこで「日本数学会は会員の便宜を図るためのものである」と対象者を決めてリニューアルすることとした(後述のように、非会員向けのコンテンツは第2階層の1つのカテゴリーにまとめた)。

リニューアルを依頼する業者は提案型入札で決めた。入札説明会に参加した各社に予算と要求仕様を伝えて、デザインを提案させた。また広報委員会、情報システム運用委

員会、出版委員会、事務局の中から選考委員に選出した。選考委員には各社の提案書を採点してもらい、合計得点最上位の業者を選定し、リニューアルを依頼した。

ここから業者を交えて議論を行い、基本設計を開始した。具体的には現在のホームページの各ページを再編成するために、第2階層、第3階層（トップから2つ下の階層）までのカテゴリーを決めた。新しいページにおける第2階層（トップ直下の階層）は以下のようなカテゴリーとなっている。

- (1) 学会概要：学会の静的な側面を記述したもの
- (2) 学会活動：学会の動的な側面を記述したもの
- (3) 刊行物：学会が刊行する出版物
- (4) 分科会・各種リンク：他へのリンク
- (5) 数学に興味のある方へ：数学会会員でない人向けのページ

また各第2階層の下に第3階層を置き、さらに細かいカテゴリーを設けた。その後、現在の日本数学会ホームページの各ページを第3階層以下に配置した。一方新しいホームページは会員向けと位置づけたので、会員の関心が高い「学会講演申し込み」と「学会会員の各種手続き」には、階層をたどることなくトップページから一気に飛ぶ仕様とした。こうした配置の仕様ができあがったところで、現在の各ページを新しいデザインに移し替える作業を業者に依頼した。

上記のようにすんなりと書いたが、実際にはこれらは簡単な作業ではなかった。カテゴリーを決めたものの、どのカテゴリーに入れることが適切なのかわからないページも多数現れ、それらを1つ1つカテゴリー分けする作業は難航した。また新しいデザインに移し替える作業も決して機械的な作業ではなかった。業者は新しいデザインへの移し替えを1つ1つ手作業で行うことに追い込まれ、作業は長期化した。とはいえ、原稿執筆時点でこうした作業はようやく終わりを迎えつつある。

今回のリニューアルに当たっては、高度な技術を使用しない静的なページで作成することも心がけた。ホームページ作成・管理のシステムは技術革新のペースが速い。今流行しているシステムを利用すると、数年後には陳腐化してしまう可能性がある。一方日本数学会はそれほど頻繁に大規模リニューアルを行わないと予想される。そこで、できるだけ素朴なページにして、技術革新のペースに飲まれないようにした。

以上のような経緯を経て数学会ホームページはリニューアルされた。しかしそれは完全なものであるとは全く思っていない。むしろ見落としや不完全な部分が多いと予想している。そこで会員の方にはぜひ一度リニューアルされたページを訪れてもらいたい。そして疑問や意見、エラーの発見などがあつたら、事務局に知らせてもらいたい。公開後も多くの方からの情報を得て、動的にエラーなどを潰していければ、と考えている。

最後になったが、リニューアルにあたっては理事会、広報委員会、情報システム運用委員会、ニューズレター委員会、出版委員会の多くの方から助けを頂いた。また事務局の方にも大変お世話になった。この場を借りてお礼を述べたい。